

緊急消防援助隊情報

緊急消防援助隊資機材（バッテリー式救助用破壊器具及びドライスーツ）の配備について

参事官室

1. はじめに

東日本大震災における津波被害を受けた多くの地域は、がれきや泥などにより車両の進入ができず、大型の救助資機材を活動現場まで搬送することが非常に困難な状況が頻発しました。また、冠水した地域では、泥水中の鋭利ながれきがあるとともに、寒冷な気候の中で、非常に困難な活動現場でした。

そうした教訓を踏まえ、消防庁では緊急消防援助隊に対する無償使用制度により、バッテリー式救助用破壊器具及びドライスーツ各500式を全国の消防本部に配備しましたので、その概要について紹介します。

2. バッテリー式救助用破壊器具

配備されたバッテリー式ハンマードリル及びセイバーソーの特徴としては、小型・軽量で安全性や機動性が高くなっています。また、充電式で一酸化炭素が発生しないため、閉鎖空間での救助活動でも有効です。



バッテリー式ハンマードリル



バッテリー式セイバーソー



ドライスーツを着装した水中による訓練の様相

3. ドライスーツ

配備されたドライスーツの特徴としては、本体主要部分にクロロプレンゴム、水に浸かる下半身部分にはラジアルコーティングを使用しています。また、傷の付きやすい肘や膝部分はパッドで補強をすることにより、耐久性に優れた構造となっており、鋭利なものから足元を保護するための踏み抜き防止を施しています。



ドライスーツ

さらに、前開きファスナー方式を採用したことで、緊急時に1人でも着脱が可能です。

4. おわりに

緊急消防援助隊はその創設以来16年以上が経過し、幾多の出動事例においてその機能を発揮してきましたが、各種災害に的確に対応するため、さらなる充実強化を目指していかなくてはなりません。

消防庁においては、今後とも各消防機関、都道府県及び市町村の協力の下、ハード・ソフトの両面において緊急消防援助隊の機能向上のため、総合的に取り組んでまいります。

写真提供：松戸市消防局